

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年2月25日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690100047
法人名	有限会社 ピースアンドハーモニー
事業所名	グループホーム ローズタウン
所在地	鹿児島市下荒田二丁目1-16 (電話) 099-284-1582
自己評価作成日	平成26年2月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成26年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設して以来、変わらず実践しているのは、「予防」である。病状や認知症の悪化を防ぐ事を目的にしている。「予防」の実践により入院せず施設での生活維持に繋がると思う。その為にスタッフは、日々利用者の様子や状態の変化の把握に努める様努力している。また、認知症について地域の方々により正しくより深く知って頂くよう手作りの新聞を月1回地域の方々に回覧している。「だれでもなる可能性がある。」との思いで地域にささやかではあるが情報発信している。もうひとつ心掛けていることは「チームケア」である。スタッフのストレスの軽減とスタッフ同志の共通情報把握の徹底を目的としています。この事は利用者にとっても戸惑いや不安の軽減に繋がると思い実践努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・「家族のように暖かく友達のように仲良く暮らしたい、やすらぎと笑顔に満ちあふれた明るい空間、うちとけた家族のようなあたたかさ、地域に向けた音楽のようなやさしい光」といったホームの理念を掲げ職員全員で理解して日々のケアに活かし、職員は立ち止まり、理念の原点を省みている。
- ・法人が医療機関であり、主治医や他の医療機関との連携が図れ重度化した場合や急変時の迅速かつ適切な対応が円滑に取れるため家族も安心している。
- ・職員は、それぞれの将来的なビジョンを持ち資格取得や研修会などを通じて自己研鑽にも積極的で職場の人間関係も良好であり、定着率も良い。
- ・ホームは、市の中心部電車通りの4階建てビルの中にあり、2階、3階がホームとなっている。4階の交流室を地域交流などに活用している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	皆が見れるように理念を玄関や事務所に掲示しています。ケアを実践するための指針としています。	理念は、創設後職員で地域密着型サービスの意義を踏まえ一度見直しをしている。また、玄関やスタッフルームなどに掲示するとともに朝礼で唱和して共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域にもホームのことを少しずつ知られるようになってきた。地域行事への参加やボランティアに来て頂いている。	町内会に加入し、施設長は福祉部の一員として、管理者は体育部長として活動している。また、総会や地域行事、月2回程度清掃活動に参加したり、小・中学校の運動会へも出かけている。ホームでの敬老会には中学生や地域の方々の参加もあり交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	24時間365日スタッフのいる認知症専門の介護事業所であるという利点を生かし、地域における認知症相談拠点としての地域貢献してゆくことを目指している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に1回開催。現状報告の後、毎回テーマを決めて意見交換している。ケアの困難事例、苦情・事故・研修などである。出された意見は施設運営に活かす様にしている。	会議は、2カ月に1回開催されサービスの状況や評価、困難事例、ヒヤリット・事故報告など議題にして家族や民生委員、地域包括職員、各事業所代表職員が参加している。事前に会議資料を配布しているので、活発な意見交換ができ、出された意見は事業所運営に活かされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営に関する相談やアドバイスをもらったりしている。介護相談員の受け入れもしている。	認定更新の機会など市担当者とは日々業務上、密に連絡を取りながら相談や助言を頂き協力関係を築いている。また、介護相談員の受け入れもしており利用者や家族にも安心感を与えている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の弊害を勉強会などで繰り返し学んでいる。玄関の施錠については街中の施設ということで利用者やご家族も理解して頂いている。	身体拘束や虐待防止については、毎月職員全体の勉強会をしている。帰宅願望が強かったり、不穏な時間帯などは本人に寄り添いコミュニケーションをより多く取り気持ちの安定を図るよう努めている。都市型施設で、防犯と安全確保のためオートロックではあるが、利用者は違和感なく過ごしており、家族や面会者も理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	開設者自ら「自分がされて嫌なことは虐待に疑いがある」との指導のもと利用者の尊厳を守るように努めている。又、認知症の勉強や体調管理の維持にスタッフは注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	実際に制度を利用している方は居ないが、勉強会などで制度について話している。当施設としては、入所時に身元保証人を4名たててもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>家族の方に、不明な点が残らない様に具体的事例や解りやすい言葉で説明する様心掛けている。同時に施設で生活する際のリスクも話す様にしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>面会時や家族会で意見や要望を聞いている。又意見箱の設置を行っている。出された意見要望は運営推進会議などでも報告するようにしている。</p>	<p>本人や家族の意見は、直接面談して意見を引き出したり家族会ではアンケートを実施し、運営推進会議などで意見を報告し、さらに検討が必要な場合などはメンバーと協議する機会を設けている。玄関に意見箱は設置しているが、直接のやりとりが多い。出された意見や要望などは、ミーティングなどで情報を共有し運営に反映させている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>代表者と管理者は常に職員と何でも話し合える関係の構築に努めています。話し合いながら改善に取り組んでいます。</p>	<p>月1回の職員会議で職員同士意見を出してもらい話し合いながら業務の見直しや改善をしている。施設長や管理者は、職員が意見を出し易い職場環境を整えるとともに社会保険労務士にも話し合いに入ってもらっている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>代表者は職員の努力や実績を積極的に把握する様に努め、さらに報われるように待遇を含め環境整備に努力している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表者は研修の意義をよく理解しており、法人外の研修には積極的に参加する様すすめたり、法人内の研修には、必ず自らも参加している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県や市のグループホーム協議会に加入し互いに情報交換や研修を行う事に代表者は理解を示し支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約の段階で、本人、家族の困っていること、不安、要望等を十分聞かせて頂き、安心して頂ける様な、サービスの提供を行うことで、良い関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時には、これまでの生活状態・心身状態を聞きとり、問題となっている事や要望を踏まえ、今後のケア方針を本人、御家族と一緒に考える様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当施設で「出来る事」「出来ない事」をしっかりと伝えるのは当然だが、出来る範囲内に於いて必要な支援を順次行っている。他ノサービス利用が必要な場合は対応を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、支援される側という意識を持たず、お互いが協働しながら生活できるように声かけや関わりを日々考えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との方々と共にどんな暮らしをしてゆくか考える。さらに施設と家族で本人を支える為の場面や機会作りを行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が昔交流していた人との手紙のやり取りや御近所さんの訪問など継続的な交流が出来る様働きかけている	行きつけの美容院や温泉、墓参り、外食などは家族に依頼しているが、事業所は入所してからの地域（おたっ者クラブ、敬老会、福祉館での交流など）との関係性も大切に支援し継続的な交流ができるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や、感情の変化を理解した上で、利用者同士が関わり、支え合える関係が持てる様に支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了については、必要に応じて、その後の適切な医療や福祉機関を紹介している。又、終了後の本人や家族の様子を時にふれ、聞く様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のかかわりの中で声を掛け把握に努めている。言葉や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。医師疎通が困難な方には、御家族や関係者から情報を得る様にしている。	本人の思い、希望や意向を把握する時、ホームの理念を再確認するよう心がけている。日々の生活の中での本人の言葉やしぐさ、表情など推し測り気持ちを汲み取るよう担当職員を初め全職員で取り組んでいる。意思疎通困難な方にも、寄り添いながら本人主体にケアするなど関係性を深めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な限り本人から、聞きとりを行い、同時に家族や関係者から情報収集を行うようにしている。ただ、プライバシーの問題があるので配慮する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフが出来るだけ気付きを積み上げる様にしている。本人の持っている力などを考慮している。疾病については病院との連携を深め、把握する様にしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族から希望を聞きながら介護計画を作成している。3ヶ月毎に職員からの意見を聞きモニタリングや評価、見直しを行っている。新たな介護計画作成後は全職員に見てもらい確認してもらっています。	職員全員がアセスメント、モニタリング実施して本人の意向や家族のアイデアを反映しながら計画作成し、モニタリングは3ヵ月に1回している。また、担当者会議には可能な限り家族にも参加を求め、チームで現状に即した介護計画を作成して随時見直しをしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別記録の記入を行い、常に職員間で情報を共有し、実践の見直しや、計画の見直しにいかしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>利用者や家族の要望、希望を実現するためにチームケアとして多様な支援を行っている。専門医への通院。入院時の支援、帰宅・買い物等の個別支援。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>利用者が安全に暮せる様に地域の消防署や警察等と連携している。又、民生委員や地域の方を含め、ボランティアなどに来てもらっている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>契約時に主治医が定期的に診察する事を説明し、同意を得るようにしている。専門的な診療は専門医療機関を受診してもらったりして状況に合わせた診療態勢をとっている。</p>	<p>主治医は、協力病院で隔週訪問診療を受けている。他科受診は、家族と相談のうえ専門医療機関を受診してもらっている。内服薬が変更になった時は、1週間程度注意して様子を見るようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師には、日々の心身の状態や情報、気づきを、伝え指示を受けながら、利用者が適切な受診や看護が受けられるように支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院中も主治医や病棟の看護師と連絡取り合い、相談し1日でも早く退院出来る様に努めている。又、スタッフも交替で面会に行く事で、ご本人に安心して頂けるように努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>早い段階では、入所時にある程度の方向性を話し合い、必要な段階には、家族を含め、主治医、看護師等と十分な話し合いをおk内、チームでの支援に取り組んでいる。</p>	<p>入所時に、重度化した場合など事業所ができることを説明し、対応方針を定めた同意書をもらっている。段階に応じて家族や主治医、看護師や職員と十分な話し合いをもち、チームケアに取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>最低年1回の訓練を受け、緊急対応の研修等にも参加し、実践力を身に付ける様にしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>防災訓練は年2回実施しており、そのうち1回は地域住民の方にも参加して頂いている。消火器の使い方や、避難誘導の訓練や消防設備の点検も実施している。非常用の食糧、飲料水も備蓄している。</p>	<p>計画的に防災訓練や自主訓練を実施している。年2回のうち1回は、地域の方の協力も頂き訓練を実施。備蓄も確保されている。消防署職員の避難誘導訓練指導、消防設備の点検もしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>入職時に個人情報の厳守について説明し、納得してもらった上で誓約書を提出している。日頃から会議等で利用者の尊厳のあり方について話し合い、利用者に対しイニシャルを使ったり、更衣・整容は居室で、共同の脱衣所にはカーテンを使用するなど、プライバシーに配慮する。</p>	<p>利用者には、苗字や名前の後にさんをつけ失礼のないよう声かけしている。排泄は、耳元でさりげなく誘導の声かけをしたりして本人を傷つけないケアを心がけている。失禁などの失敗があった場合などは、個別に誘導して対応している。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>日頃から利用者とのコミュニケーションを密にとることで、本人の希望や思いを感じ取り、利用者が選べるように声かけ等を工夫している。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>1日の中で大きなスケジュールは決まっているが、出来るだけ利用者の希望に沿った過ごし方が出来る様に工夫している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>利用者が望む身だしなみや化粧を、出来る方は自分のペースで、力のない方は介助を行う事で、満足して頂けるように工夫している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者の希望を取り入れたメニューを作り、スーパーでの食材購入から食事作り、後片付けまで皆で協力し合いながら行っている。職員と利用者が同じテーブルを囲みコミュニケーションをとり、楽しい時間になるよう努めている。</p>	<p>メニューは、週1回利用者と相談して決めている。食材の差し入れなどあった時は、献立が変わることもある。日課の食材の下ごしらえ、配膳や下膳は職員と一緒にこなっている。花見弁当は利用者や職員と一緒に作ったり、七草、ひなまつり、誕生会などの行事食も充実している。また、嗜好調査をして（美味しいものを）楽しく食べられる支援をしている。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量（主食・副菜）水分量の摂取した量と時刻が一目で分かる様に記録している。本人が食べられない物への配慮も含め、希望を取り入れ、季節感のある献立を心掛けている。また、その人の状態に合わせて、食事の形態やメニューを変更している</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後にその人の状態に合わせた口腔ケアを行っている。入歯は毎日、夜間睡眠中に外して頂き洗浄液に浸け、清潔を保つようにしている。口臭や舌苔がある場合には、専用のブラシやスポンジを利用し、その人の状態に合ったケアをしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、利用者一人一人の排泄パターンを把握し、排泄の失敗が少なくなるように支援している。支援の方法については、カンファレンスを通して、オムツを使用せずに、自立してトイレを使えるように、全スタッフで統一したケアを行っている。	羞恥心やプライド、プライバシーに配慮し、排泄チェック表を作成して本人のリズムを知り、昼間はトイレを気持ち良く利用できる取り組みをおこなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者一人一人の状態を把握し、自力での排泄を促せるように、日々の食事の中に食物繊維や乳製品を取り入れたり、運動や水分摂取についても工夫している。3日排便見られない時は腹部マッサージやホットパック等使用して排便を促している。下剤についても主治医に相談する様になっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は、週に3回。入浴のない日は足浴をおこなっている。時間については、利用者の希望に添って行っている。寛いだ時間になる様に個別の入浴支援をおこなっている。希望があれば近くの温泉に行くこともある。普段出来ないコミュニケーションの場とすると共に身体観察の場ともなっている。	入浴が本人にとって楽しみな時間になるように（羞恥心や不安感を軽減して）、言葉かけや対応を工夫し、チームプレイによって一人ひとりに合った入浴の支援をおこなっている。入浴のない日は、就寝前に、足浴をして心地よい眠りなるよう工夫している。可能な限り浴槽に浸かりゆっくりと入浴を楽しんでもらう方針である。また、異性介助にも配慮し利用者本位に支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	日中は居室や共有スペースを 使用し、自由に休息を取って頂 くようにしているが、1日の中 で午睡の時間を設けるなど動と 静のメリハリをつけられる様 に工夫している。昼夜を通して 空調を整え、安心して気持ち 良く眠れる様に工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めて いる	全スタッフが情報を共有する ように心掛け、利用者の状態 に応じた服薬支援を行っている。 又チェック表や専用の薬箱を 作成し、投薬ミスのない様に 必ず確認を行っている。また、 症状の変化も観察し、異変が ある時は主治医と連携してい る。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を 過ごせるように、一人ひとりの 生活暦や力を活かした役割、嗜 好品、楽しみごと、気分転換 等の支援をしている	日常の生活の中で、その人の 力の応じた役割を担っていただ いたり、個々の希望や楽しみに スタッフが参加することで、張 り合いをもっていただけると いうように工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>室内で1日中過ごして頂くことのない様に、日常的に近くの神社への散歩やスーパーへの買い物などを行っています。地域行事や季節感のある行事を計画し楽しんで参加して頂ける様に支援を行っている。又、本人の希望に添ってお墓参りや外食、温泉等、家族と相談しながら実施している。</p>	<p>毎日、散歩がてら近くのスーパーに出かける方もあれば地域の行事への参加をする方、家族と墓参りや温泉、外食を楽しむ方など個々に外出を楽しんでいる。また、春・秋の花見の外出は家族にも呼びかけ、本人、家族、職員と一緒に外出できるよう支援している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>基本的に、お金は所持していないが、必要な物、欲しい物は、自ら選んで購入していただけるような支援を行っており、購入する喜びを感じて頂ける様に工夫している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>希望により、本人自らご家族へ電話されたり、贈り物が届いた時等には必ず本人に電話で話をして頂く様にしている。葉書を自ら書いて出される方もおられる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には毎月季節を感じる事が出来る様な飾りを利用者と共に作り、広いリビングには花や写真を飾っている。和室の大きな窓から差し込む柔らかい日差しが心地よい空間を作っている。和室には、仏壇を設置しており、朝晩に手を合わされる方もいる。換気をこまめに行い空調を整えている。季節の花々や野菜などもかざっている。	玄関には、季節を感じる生花が活けてあり、ベランダにはプランターが置かれ、花を咲かせている。都市型住居であるが、室内は、広々としたリビングルームと和室が隣あわせにあり、毎朝洗濯物を畳んだり食事の下ごしらえをするための生活感漂う居心地のよい空間となっている。和室の大きな窓やリビングのサッシからの採光も十分ある。また、和室には、仏壇もあり朝晩手を合わせる利用者もおられる。壁には、行事の時の利用者の写真や作品が掲示してある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関や台所近くなどに一人用の椅子を置き、リビングにはソファを置いて自由に使ってもらっている。和室も有り、書道などの御自分の趣味を楽しまれる方もいる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使い慣れた家具や置物、御供養の品々や、御家族との思い出の写真などが飾ってある。また、御家族が持って来られる花を飾ったり、穏やかに安心して過ごせるように配慮している。	本人が使い慣れた家具、仏壇、テレビ、枕や毛布、家族の写真や花々などが置かれ壁には好みのポスターが掲示してありそれぞれの利用者の個性が活かされ安らぎが得られるような環境づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や居室、トイレに手摺りを設置し自力で移動しやすいように配慮し、家事なども個々の力に応じ自分の意思で参加して頂ける様に工夫している。常に、スタッフが見守り、不安や心配、事故のないよう配慮する		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない